

町指定文化財

もくぞうだいにちんによういざぞう

「木造大日如来座像」

指定年月日／平成一六年五月七日  
所在地／城里町那珂西 管理・所有者／宝幢院



大日如来は、真言密教の教主で、宇宙の真理そのものがこの世に如来の姿として現れたものとされています。その姿は、他の如来像が螺髪で薄い衣一枚を着するだけなのに対し、菩薩のように髪を結び上げ宝冠や胸飾り等の豪華な装飾品を身に纏った王者の姿として表されます。

宝幢院に安置される町指定文化財の「木造大日如来座像」は、胸飾りなどの装飾品は失われていますが、品良く温和なお顔立

ちで、胸前に智拳印を結び、右足を上にして結跏趺坐する金剛界の大日如来です。



材質は檜で、像高は九五センチメートルです。平安時代の作で、県内の大日如来像では最もものとされています。体内には二つの銘文が残されており、頭部内から首部にかけて記された墨書銘には、この仏像は白馬寺の本尊であり、当時は観音像として信仰されていたことが記されています。

体部内背面に刻された水戸藩二代藩主徳川光圀による修理刻銘には、光圀が元禄年間(一六八八〜一七〇四)にこの大日如来像を修理し、宝幢院に移して安置したことが記されています。

墨書銘の白馬寺は、江戸時代初期まで石塚に存在した曹洞宗の寺院で、元禄九(一六九六)年、光圀の命により現在の常陸太田市天神林町に移っています。

解説文／町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局  
☎029-1288-13135

俳句

炬燵寝の父どつぷりと溺れをり  
飯田 勇一  
嘴を背に乗せてをり鴨昼寝  
森 静江  
母の居て有難き日々針供養  
中野 千賀子  
夜明け霜休耕田の乾く音  
仲田 まちゑ  
亡夫の座は今もそのまま置炬燵  
今瀬 多代美  
浜風や冬帽子売る古着市  
綿引 英子

蜜柑籠みどりのひと葉添へてあり  
鯉淵 寿美恵  
土産屋の炬燵老母の声高し  
飯村 昭子  
掘炬燵堂々と根を張りてをり  
竹内 幸子  
あざやかに鳥を待つ色実南天  
瀬谷 博子  
丑三つに大太鼓の音年明け  
岩下 金司  
一点の白鷺釣瓶落しかな  
田口 勝元  
登校の子らが蹴散らし霜柱  
寺門 孝子

文芸しろさと

短歌

天高く蒼に澄みたる秋空に羽  
田をめぎすか銀の飛機光げ  
杉山 みちこ  
久々に草を引きたりなつかし  
き土の匂ひと風に触れつつ  
渡辺 千紗子  
国道の黄昏どきは絶え間な  
く車のライト続きて凄まじ  
枝 不美  
三人の男孫愛でにし亡き母  
の願いは一つ戦争なき世を  
青柳 京子  
午後からは台風来たる影響か  
枝葉もろもろわさわさ揺るる  
所 美恵子  
咲き盛り金木犀は我が庭に  
香りしるけし秋陽のなかに  
山形 式妙

簞川岩をかむ流れは溪深く  
崖の紅葉に夕陽かたむく  
富田 佐智子  
運動会文化祭にと孫からは  
元気を貰い老いを生きてく  
菌部 光子  
新しい息吹を求め外に出る  
空晴れわたり爽やかな風  
富田 欽子

川柳

初詣何を願うか人の波  
富田 多蔵  
今年また幸多かれと初日の出  
車田 綾子  
トランプはやつてみないとわからない  
飯村 孝一  
城里の歴史と伝統初日の出  
川原 清

